

FSH も感度以下で, LH-RH 負荷でも反応はなかった. ターナーは両者共に高値. 下垂体疾患の LH は 0.1 以下~30.0, FSH は 0.1 以下~74.0, 視床下部疾患の LH は 5.0~8.0, FSH 3.0~25.0 mIU/ml であった. 本法は視床下部, 下垂体, 性腺系の診断に有用と結論された.

23. X線骨塩定量装置 (XR 26, Norland 社) の使用経験

横山 邦彦 加藤 喜之 藤川 克之
高橋 正彦 久保 敦司 橋本 省三

(慶応大・放)

二重エネルギー X線骨塩定量装置 XR 26 の精度および健常人の腰椎骨密度につき検討を行なった. ファントムを用いた再現性の測定では, 変動係数にして, 長期で 1.26%, 短期で 0.71% であった. 人体では変動の大きい症例もあり, 呼吸性移動, 位置決めはずれ, 軟部組織の厚さが精度に影響すると思われる. 正常人 163 人 (女性 104, 男性 59) の第 2-4 腰椎骨密度を測定し年代別の変化を調べた. 女性では 40 代から徐々に低下が始まり, その後も加齢とともに減少が進む. 男性では加齢による減少は軽度であるが個人差が大きい. 第 3 腰椎の側面像の検討では, 椎体と椎弓, 横突起を主体とする後方成分の骨重量は加齢により同様な減少を示した.